

さいたま市長年頭定例記者会見

平成22年1月5日（火曜日）

午前11時00分開会

○ 進 行 それでは、記者クラブの皆様、定刻となりましたので、ただいまから2010年の年頭の記者会見を開始させていただきます。

 それでは、幹事社の埼玉新聞さん、よろしくお願いいたします。

○ 埼玉新聞 今月の幹事社を務めます埼玉新聞と申します。明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

 それでは、早速ですけれども、市長から今年度の年頭あいさつをよろしくお願いいたします。

○ 市 長 皆さん、新年明けましておめでとうございます。ことしどうぞよろしくお願いいたします。皆様方におかれましては、昨年中、市政各般にわたりまして、ご理解、またご協力を賜り、まことにありがとうございました。

 さて、昨年を振り返りますと、私にとりましては大変激動の年でした。前半は、私ごとではありますが、さいたま市長選挙に立候補するかどうか、自分にとってはまさに人生をかけた、また政治生命をかけた大変大きな決断をいたしました。多くの市民の皆様から変革への熱い思い、また大きな期待を受けまして、選挙戦を勝ち抜き、新しいさいたま市長に就任をすることができました。

 就任後は、徹底した現場主義を実践するため、130カ所を超える現場訪問やタウンミーティングを実施してまいりました。タウンミーティングなどの場で市民の皆様から直接伺った貴重なご意見は、市政運営の大切な糧と考えております。

 また、くらし応援室などの区役所改革や行財政改革推進本部の設置、縦割り行政の弊害をなくすための部局横断型の7つのプロジェクトチームなど市政改革を実施するとともに、私のマニフェストの実現に向けて具体的なスケジュールや、あるいは数値目標を含めた「しあわせ倍増プラン2009」を発表するなど、まさに全力で駆け抜けた1年でもありました。ようやく改革を進めていくための仕組み、そしてビジョンといった基盤ができたものと思われま

ことしも、「徹底した現場主義」、また市民、事業者、行政がみずからの責任を果たし、地域の課題をともに考え、ともに行動する「責任と共感(共汗)」、そして地域に偏らない、しがらみのない「公平・公正・開かれた市政」の3つを基本姿勢として、市政に全力で傾注をしてまいりたいと思います。

特に、一円たりとも市民の皆様の税金を無駄にしない徹底した行財政改革は、しあわせを実感できるさいたま市をつくるためのまさに基盤となるものであります。タウンミーティングやパブリックコメントなどの場を通じていただいた市民の皆様のご意見はもとより、行財政改革有識者会議の議論を踏まえ、早い時期に新たな行財政改革推進プランを策定し、不退転の決意で取り組んでまいり所存でございます。

また、昨年11月に発表しましたしあわせ倍増プラン2009は、新生さいたま市のビジョンである「子どもが輝く“絆”で結ばれたまち」を実現するため、市政運営の最優先事項として位置づけ、最少の経費で最大の効果を上げるべく、全庁を挙げて取り組んでまいります。中でも、子供たちの自主的な学習をサポートする「さいたま土曜チャレンジスクールの実施」や「多目的広場倍増プロジェクト」など、予算をかけずに職員の知恵と工夫をフルに活用して、市民の皆様とともに取り組んでまいりたいと考えております。

また、高齢者サロンや介護者サロンなど安心して長生きできるまちづくりや、認可保育所及びナーサリールームの定員増による「待機児童ゼロプロジェクト」の推進、さらには小中学校校舎の耐震事業の前倒しの実施、E K I Z U N A サミット構想の推進など、まさに市民の皆様幸せ倍増に向けた取り組みが具体化する年でもあります。

徹底した行財政改革、徹底した情報公開、また生産性の高い都市経営を行い、日本一ひらかれたまち、日本一身近で素早い行政、また日本一しあわせが実感できるまちへと邁進をしてまいりたいと考えています。

以上、簡単ですが、平成22年の年頭に当たりまして、私の考え方を申し上げます。本年も皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

○ 埼玉新聞 それでは、幹事社として代表質問をさせていただきます。質問はまとめ

で行いますので、よろしく申し上げます。

質問は3つなんですけれども、1つ目としては、ことし1年の抱負と展望について、もう少しやわらかいお言葉でお聞かせください。

2番目といたしましては、清水市政初の予算編成となりますけれども、市長査定に向けて心構えはいかがでしょうか。

3番目といたしましては、新都心8 1 A街区についてなんですけど、昨年末の動きを踏まえてとなりますが、市長ご自身が持つ今後の展望はどのようにお考えなのでしょうか。また、さいたま新都心をどのようなまちにしていきたいのかについて、改めて伺いたいと思います。

○ 市 長 ことしは、とら年ということでございまして、私は年男ということになります。とら年は大きな変化が起こると言われておりますが、その前にですね、昨年まさに政権交代という国におきましては大きなことが起こりました。また、さいたま市でも同様に政権交代ということが起こり、まさに新しい時代がスタートし、またそれが続いている、そういった年になろうと思います。

ちょうど私が生まれました昭和37年、ちょうど当時は池田勇人内閣でありました。私の名前は、ちょうどそのときの勇人をもらいまして、清水勇人という名前がついたわけですが、この内閣はちょうど発足をした昭和35年の12月に国民所得倍増計画というのを閣議決定をし、後の10年間で国民所得を2倍にしようという大きなビジョン、国民の夢を掲げてスタートしました。この計画は、7年間で達成、2倍にするという大変大きな高度成長を生むきっかけとなったものでもあります。私は、そういう意味からですね、昨年発表しましたしあわせ倍増計画というのはですね、今は経済的な豊かさだけではなくて、もっと違った、さまざまな視点から市民の皆さんに新しいビジョンを提示していくことが必要ではないか。夢だとか、健康だとか、あるいは環境だとか、あるいは雇用安定だとかですね、あるいは安心安全だとか、そういった視点から私なりに指標を幾つかつくらせていただきまして、それを、私の場合は4年間で倍にしていこうということを経済的な考え方としてこの倍増プラン2009を策定させていただき、数値目標、それからスケジュールというものをしっかりとつくらせていただきました。そういう意味では、このしあわせ倍増プラン

2009をスタートさせる大変重要な年だというふうに思っておりますので、それらをしっかりと実現をしていきたいという思いと、あとやはりさいたま市、すばらしいものがたくさんございます。さらに、もっとすばらしい年に私はなっていけるというふうに思っておりますので、そういう意味ではさいたま市が自信と誇りを持って、そして昨年ずっと言い続けてまいりましたが、絆を強く、深く結んでいく、そういうさいたま市にとって誇りと絆をつくるスタートとなる年にしていきたいなというふうに思っております。市民の皆様が、さいたま市のすばらしさをしっかりと感じ、またそれを誇りに思えるような、そんなまちづくりを進めていくためのスタートになる、きっかけとなる1年にしていきたいというふうに思っています。

ことしの3月28日には大宮盆栽美術館もでき、まさに世界に発信できるような、そうした施設あるいはそういった事業にしていきたいというふうにも考えております。

また、非常に個人的ではありますが、今行革を進めていますが、行革の有識者会議でもお話しがありましたけれども、行革だけでは余りにも夢がないじゃないかというようなご意見もありました。公式なものではありませんけれども、私自身はやっぱり将来のさいたま市の夢、あり方、これをどういうふうにしていくのか。それこそさいたま市100年構想ではないですけども、総合振興計画で位置づけている10年よりもさらに長い、長期のスパンですね、さいたま市をどういうふうにつくっていくのか、世界の中で、アジアの中で、日本の中で、また首都圏の中で、このさいたま市をどういうまちにしていくのか、そんな視点でそういったものを自分なりに描いていきたいなと。そして、また市民の皆様とともにそれらを考えながら、このまちづくりを進めていこうというふうに思っています。

それで、年末の最後でもお話ししましたけれども、この勇猛果敢にというやつに続きますけれども、勇猛果敢にさいたま市民の心をとらえて、日本一の政令指定都市をつくるために魅力あるまちづくりにトライをしていくということを心に据えながら頑張っていきたいと、このように思っております。これが1問目ですね。

それから、代表質問2問目、当初予算の市長査定の心構えについてということでございますけれども、いよいよあしたから市長査定が始まります。私にとって初めての予算編成ということになります。例年の倍近い1週間ほどをかけたまま、時間をかけてじっくりと事業の検討をしていく予定であります。

現時点では、歳入という意味では市税が大変、大幅に今落ち込んでいると。また、歳出では生活保護費あるいは中小企業の資金繰り対策等ですね、大分その支出の部分も大変増えているということから、大変厳しい予算編成になると聞いてもいます。

平成22年度の予算編成は、本市における行財政改革元年ということに位置づけまして、12月3日付で各局長に「行財政改革推進体制の整備並びに事務事業見直しメルクマール及び平成22年度予算編成への反映について」を通知をしまして、既存事業の見直しの指示をいたしました。

あすからの市長査定におきましては、各局等から見直し事業のヒアリングを行い、徹底的な無駄の排除に取り組んでいくつもりであります。また、一方で、昨年11月に作成をいたしましたあわせ倍増プラン2009を具現化するとともに、経済対策等、市民生活を重視した予算編成を行うことで、子どもが輝く“絆”で結ばれたまち、幸せを実感できるまちの実現に向けて努力をしていきたいというふうに考えております。

続きまして、3番目ですね、8-1A街区についてでございます。

先般の民間事業者からの事業環境の悪化により当初の計画どおりの事業継続は困難という申し出に対しまして、どうしたら事業継続が可能なのか、あらゆる角度から検討していくために、本年7月25日までの協議期間の設定について、主催者3者と民間事業者の間におきまして、昨年12月25日に合意に達したところでございます。

市としては、同じ主催者でもあります県及び都市再生機構とともに、今後とも知恵を出しながら、さまざまな方策をあらゆる角度から検討してまいりたいと考えております。また、民間事業者におきましても本事業の重要性を十分に認識をしていただき、最大限の努力を求めてまいりたいと考えています。

次に、新都心をどのようなまちにしていきたいかということについての

ご質問ですが、さいたま新都心第8 1 A街区整備事業は、新都心の地域のにぎわい性あるいはシンボル性の創出に欠かせない事業であると考えています。

私としては、新都心地区を市民を初めとする皆様に未永く親しんでいただくために、にぎわいと活気にあふれ、お互いの絆を深めることができる魅力あるまちにしていきたいという考えを持っております。

以上です。

○ 埼玉新聞 ありがとうございます。

それでは、今の代表質問について質問がある方は各社お願いします。

○ 朝日新聞 朝日新聞です。

予算編成の絡みで、昨年12月17日に発表があった予算要求の状況の資料によると、市税収入は100億円近い落ち込みになると思うんですけども、どう認識されているのか改めてお願いしたいと思います。

○ 市 長 今後さらにそれを精査していくことが必要だと思っておりますが、非常にその歳入の落ち込みということを意識しながら予算編成をしていかなければいけないとも考えている一方で、やはり歳入を増やすための努力ということもですね、考えていかななくてはいけないと思っておりますので、この2つの視点ですね、一円たりとも無駄にしない、徹底した無駄を排していく、そうした予算編成にしていくことと、それからもう一つは民間の皆さんのお力も借りながら、やはりできるだけ歳入を増やす、歳入を増やすためにはどういうふうにしたらいいか、あるいはどのような形で事業をやったらいいのかというようなこともしっかりと検討しながら、その予算編成に当たってもですね、そういう視点がしっかりと盛り込まれている、そういった事業手法をとっている予算編成になっているのかどうか、それらをしっかりと見きわめていきたいと思っております。

○ 朝日新聞 具体的に歳入を増やすというのは、何か案があるんでしょうか。

○ 市 長 そうですね、いろいろ、厳しい時代でありますけれども、いろいろ広告であるとかですね、あと事業のやり方もですね、もちろんネーミングライツだとか、いろんな歳入をふやすための知恵を今、行財政改革推進本部でも民間力活用チームのほうで検討してもらっておりますので、今年度中に間に合うものになるかどうか別なんですけれども、そういった視点でも取

り組んで、短期的に歳入を増やす手段があるかどうか。それから、中長期的に増やす手法、これらをしっかりと検討して、そういった視点もこの予算編成の中でも少しでも盛り込めればと思っております。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。
歳入の落ち込みとマニフェストの実現という難しいかじ取りをやられると思いますが、それは国政でも同じような状況がありましたけれども、これから予算査定を踏まえて予算を決めるわけですが、最終的に判断をされるのは市長ご自身で、一人で判断されるのか、あるいは幹部との協議を重ねて対話の中で最終的な決定を模索するのか、どのようにお考えでしょうか。

○ 市長 もちろん、検討していく過程の中では幹部職員の意見もしっかりと聞いていくつもりでありますけれども、最終的な判断は私自身が責任を持ってするつもりであります。

○ 埼玉新聞 かなり国のほうでは発言がぶれたりして、いろいろと混乱が起きたけれども、そういうことは。

○ 市長 そうですね、マニフェストを基本的には実現をする方向でやっておりますが、ただやっぱり歳入の落ち込みとかいろんな状況があります。経済環境が大変厳しいというのは私自身も認識をしておりますので、そういったことも総合的に判断をしてやっていくべきだと考えております。

ただ、出してきたマニフェストについての基本線は変えるつもりは一切ありませんし、それらを着実にやっていきたいというふうに思っています。若干数量的な部分でこぼこするものが出てくるかもしれませんが、基本的な方針は一切変えていないというふうにしていくつもりであります。

○日本経済新聞 日本経済新聞です。
この間の予算編成の見通しで、既に財源不足はたしか400億円ぐらいあるという幅でしたよね。その幅が、例えば広告を増やすとか、事業のやり方を変えるということで、その財源不足の幅というのは狭まっていくって見通しはついていらっしゃるのでしょうか。

○ 市長 そうですね、今1つは財政局のほうで査定をしておりますので、そこである程度圧縮をし、また私自身もそれらをさらに見せていただきますので、とにかく圧縮をしたり、削減できる部分は削減をしていくと。ただ、やは

り非常に大きなギャップもありますから、しかも、いわゆる生活保護費ですとか、中小企業の資金繰り対策等々、やっぱりこの時期だからこそしっかりやっておかなければいけない対策も今ちょうど出て、一方ではそういう歳出を、その部分はマニフェストとは別にですね、確保しておかなきゃいけない、そういった部分もあると思っておりますので、その中でやっぱり総合的に判断をしていくということになると思いますね。

- 読売新聞 済みません、読売新聞です。
昨年末もお聞きしましたが、ちょっと時期がたったんで、もう一度同じことを聞きますけど、いわゆる今年度、21年度当初予算と比べての事業規模というのはどんなものでしょう。
- 市長 そうですね、21年度と比べると、額の規模はちょっとはっきり申し上げられませんが、少し膨らむ、予算規模としては増えるんじゃないかと。やっぱり昨今のこういった経済情勢等がありますので、増えるんじゃないかと思えます。
- 読売新聞 その増える部分というのは、先ほどおっしゃったように、いわゆる生活保護費、中小企業資金対策などの部分での増額という意味合いなんですか。
- 市長 そうですね、それプラス当然マニフェスト関係も出てくると思いますが、あと、いわゆる特別会計の関係だとかですね、いろんなものの変化もござりまするので、いろいろそんな状況も見ながらやっていかないと、今私のところに具体的な（資料が）まだ来ておりませんので、明日からということになるので、余り詳しくは申し上げられませんが、基本的には去年よりは増えるんじゃないかというふうに思っています。
- 毎日新聞 毎日新聞です。
市債発行を抑えるってたしかおっしゃったと思うんですが、それは、じゃその足りない部分の圧縮の予算規模、こちらをって言っていて、オーバーもかなり多い中で、市債出さずにやるというのは、その無駄を省く部分で予算を出すということなのですか。
- 市長 はい。これまでも、市債発行はしないという言い方というのは、僕はしていないと思いますね。
なんですけど、基本的にはやはり財政の健全化もきっちりやっぱり見据

えてやっていかななくてはいけないと思っておりますので、そういう意味では、そういった部分も当然出てくるとは思いますけれども、ある程度の規模に押さえていくということが前提です。

- 毎日新聞 去年よりは増やさないとか、そういう意味ではどうですか。
- 市長 そうですね。現状としては、余り増やしたくはないと思っておりますけれども、どれぐらいの規模になるかが現状ではですね、まだ何とも言えないと。ただ、大きく増やすということにはしないつもりであります。
- 毎日新聞 昨年並みをなるべく目指していくと。
- 市長 そうですね、1つの目安だと言ってもいいです。さっきみたいにもっと幾つか課題もありますから、その中で多少増えてくる部分もあるかもしれませんが。ただ、ものすごくその分が増えるということにはならないと思っておりますけれども。
- 埼玉新聞 よろしいでしょうか。
じゃ、代表質問については以上で、その他質問がある方は、各社自由どうぞ。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。よろしくお願ひします。
きのう岩槻の脳神経外科病院という24時間救急や地域のある程度の基幹病院が、突然の一時閉鎖というのを職員に通告して、かなり深夜まで混乱していたんですけれども、聞くところによると市の保健所のほうから指導があって、急な閉鎖は患者さんに迷惑がかかるということで指導があったということで、多分きょうも対応協議を続けて、混乱しているというふうに聞いているんですけれども、市長のほうでどの程度事実を把握していらっしゃるって、今後こういうことに対してどのような指導をされていく考えがあるのかをお尋ねします。
- 市長 基本的なことだけ私のほうで申し上げますと、市としてはそういった状況を昨日から把握をしておりますして、どういう状況なのかという把握に努めながら、特に入院患者さん、外来患者さんとも影響ができるだけ及ばないように、病院に対して誠意を持って対応するように指導して、可能な範囲の中で支援をしていくということになると思います。詳細について、もしあれでしたら担当からお話をさせますが、必要ですか。
- 埼玉新聞 じゃ、お願ひします。

○ 事務局

私、保健所の所長でございます。

若干経緯をまずご説明をいたしますと、昨日の昼過ぎに岩槻脳神経外科の職員の方が来られまして、当日理事長、経営陣のほうから、5日から外来については休診にすると、入院患者についても退院をしてもらおうというようなことで話があったと。ただ、非常に突然のことだったので、職員のほうも非常に困惑しているし、患者様に非常にご迷惑をかけるんじゃないかという懸念をしている、保健所のほうでも何らかの指導なりをしてもらえないかというふうなことでご相談にまいられた次第です。

その後、話をお聞きしましたが、やはり経営者、理事長さんのほうの話を聞かなければ、今後の見込みだとか、そういうことも聞かなければなかなか対応は難しいだろうということで、その日の夕方でしたけれども、病院のほうに私と、職員が行って、そのときには理事長さんはおられなかったんですが、職員の方からいろいろお話を聞き、状況確認をしたところです。そうこうしているうちに理事長さんも戻られて、夜ちょっと遅くなっていましたけれども、話をさせていただいてお聞きしたところ、やはり5日からの診療については難しいということだったんですけれども、患者さんにもまだ全然話をしていないという状況だったものですから、それはやはり医療者としてどうかというような話、また患者さんにもご迷惑がかかるということで、少なくとも最低限の医療的対応はしてくださいと、当然今日の外来も含めてですね。ということでお話をさせていただきました。少なくとも、今日、明日の外来は対応していただくということで、本日は通常どおりの診療が行われているという状況になっています。

ただ、長期的にはやはりなかなか継続が難しいというお考えのようですから、入院患者さん含めて転院していただく方はご説明の上、患者さんに不利益がないように、そういう措置をとっていただくし、また外来患者さんについても、しかるべき紹介状なり、そうした対応をしながら患者さんにご迷惑がかからないような対応をしていただくようになると思います。これについては昨日の今日ですので、現在の状況の把握も含めまして、今後しっかり対応していきたいとは思っています。ただ、まずやはり病院として個々の患者さんにどう対応していくのかについては、方針を示していただかなければ、なかなか行政として直接当事者になり得ないものですか

ら、そうしたことを、病院のほうにはお話したところであります。

○ 埼玉新聞 ありがとうございます。

あと、ちょっと一般的なことになってしまうんですが、各地でこうした地域医療の崩壊の危機が危惧されているんですけども、その点に関しては今後どのような心構えだとか。

○ 市 長 医療体制というのは、非常に市民の皆さんにとっても大変関心の高い分野であります。そういう意味では、医師会の皆さんともですね、十分にいろんな話をしながら、やはり市民の皆さんに不安感を与えないようなですね、救急医療体制も含めた医療体制をしっかりと構築をしていくということが重要だと思っておりますので、今後ともそういった体制を、あるいはまた情報公開の機会をですね、増やしていきたいというふうに思っています。

○ 埼玉新聞 この年末年始、中小企業では、雇用情勢がかなり厳しい年の瀬を迎えたんですけども、来年度予算にある程度反映されるかと思いますが、中小企業対策、雇用対策について今年度中に前倒しをする考え等はあるんでしょうか。

○ 市 長 そうですね。その辺は状況を見ながらですね、ちょっと検討をしていくことになると思います。

○ 埼玉新聞 現状としては、来年度予算に反映していくという考えで。

○ 市 長 現状としては、来年度予算というふうに考えておりますけども、2月議会に向けましてですね、さまざまな動きが出てくると思いますので、その中で適宜判断をしていくということになると思います。

○ 朝日新聞 済みません。ワッツの経営再建の中でですね、12月議会で総合的なまちづくりに取り組むよう議会から注文があったと思うんですけども、どういう計画を考えていらっしゃるのか、どういうふうに検討されていくのかというのをお聞かせいただければ。

○ 市 長 今大宮で、大宮の駅周辺の戦略ビジョンをつくっておりますけれども、岩槻駅周辺についてはですね、そういう意味では副都心というような位置づけをしておりますので、そうしたもう少しワッツのあり方ということだけではなくてですね、もうちょっと広い視野から、そのまちづくりということを見直していこうと、そのための計画づくりということも考えていき

たいと思っております。

- 朝日新聞 具体的に、今年度中とか来年度に取り組み、戦略ビジョンの何か会議を立ち上げるとか、そういうような考え方はありますか。
- 市長 そうですね。それを今ちょうど検討しているところでございますので、いずれにせよそれとセットで岩槻都市振興の再建をしていかなくちゃいけないと思っておりますので、来年度に向けて何かの形で動いていきたいと思っております。
- 埼玉新聞 各社よろしいでしょうか。
- 朝日新聞 じゃ、最後にちょっと。
予算編成の話に戻るんですけども、政権、国の予算編成の遅れの影響というのが具体的に何か、どのような市に影響を及ぼしているのかとか、何か具体的な部分があれば。
- 市長 1つは、やはり子ども手当ですね。子ども手当については、一応所得制限がないとかですね、いろいろ考え方としては昨年末に発表されたわけがありますけども、具体的な制度設計というものについては明示をされていないところがございます。児童手当との併存というような形で、事務的な流れをつくっていくとすると、かなり複雑なものになると思われまして、その辺がまずきちっとしないと、ちょっとやりにくい点が幾つかあるか、あるいは基本的にはシステム改修等について補正予算で認められるというような方向だというふうに聞いておりますけども、いずれにせよその辺の具体的な制度設計ができていないという部分もありますので、若干まだそういう意味では影響があるんじゃないかというようなことを危惧しながら進めていますけど。
- 埼玉新聞 よろしいでしょうか。
どうもありがとうございました。以上をもちまして、記者からの質問を終了させていただきます。
- 市長 ありがとうございます。ことしもよろしく申し上げます。
- 進行 本日は、大変ありがとうございました。
以上をもちまして年頭の記者会見を終了させていただきます。

午前11時31分閉会